

まとめ—論点整理—（伊藤房雄）

予定していた時間をずいぶん超過してしまいました。座長の進行が悪くて申し訳ございません。ここで、私が簡単に論点整理、まとめをすることになっているのですが、時間が無いと言って端折るとまた怒られるので、簡単にお話しさせていただきます。まずは、8名の方に報告をしていただいて、3.11大震災の影響は非常に多岐にわたり、広範囲にわたり、そして問題も多様化していて、その進捗状況もずいぶんとスピード感が違っているのだと認識を新たにしました。その中で、岩手の状況について、報告していただく機会を持たなかったのは残念なのですが、おそらく岩手・宮城の地震と津波の影響と、それからの復旧・復興に向けての課題というのは土地問題、農業生産で言えば「農地問題」になるのだらうと思いました。それと関連して、今日は斎藤勇紀さんと耕谷アグリサービスの佐藤さんに話をさせていただきましたが、この震災を契機に「もうやめたい」と離れていく人たちがいる中で、担い手の方々を何とか確保する必要もあるとも感じました。二重債務問題の指摘もありましたけれど、おそらく農地問題と担い手問題が核心なのだろうと。「あれ？」これって震災関係ではなく、東北農経学会ですずっと議論してきたことではないか。昭和1桁層が大量にリタイアしている中で一層その特徴ないしは問題が表面化する中で、今回の3.11大震災が発生した。それによって問題が10年前倒して出てきて、我々は今それに直面しているのではないかと受け止めました。それに対して、今後どうしていくのかといった時に、報告者のみなさんから出てくる話としては、やはり今までとは違った新しい姿です。先ほどの福島の風評被害対策とかもそうですが、どうも今までとは違った姿をきちんと出す必要があるのだらうということが今回のプレシンポから見えてきた成果ではないか。ただ、その出し方についてはスピード感が求められる。その一方で、独断型の復旧・復興の進め方といったことに関しては、どうも違うぞという意見があったと思います。トップダウンとボトムアップ型というスピード感では相反する取り組み方の検討も必要でしょうし、はっきりと消費者なり納税者の目に見えるような形の新しい農業と農村の姿をどうやって作って行くのか。この辺が大きな課題なのかなと、岩手・宮城の場合にはそう思いました。もちろん福島もそうですが、福島の場合にはどうしても放射能汚染の除染の問題があります。まずはこれを片付けないといけない。これをどうやって克服するのかといったことが一番大きな問題なのだと思います。岩手・宮城でも同じとは思いますが、福島の場合に一層顕著なのが農業だけではなくて人口の県外流失が止まらないという問題です。風評被害と同時に人が福島から次々と離れる。今現在、県外に避難している人たちは、たしか5万人を超えていると思います。このため役場自体も移転先で機能させなければいけないとかいろんな問題を抱えている。この点は岩手・宮城とはまったく違った問題だらうと思いません。これらを来年と再来年にかけて今度はじっくりと検討していく必要があるのではないか。それぞれの大会実行委員会と学会の企画委員会、それから理事会の方々と連携しながら、それぞれの大会のテーマ等を絞り込んでしっかりと今後も議論していく必要があるだらうと思えます。なお、最初に言わなければいけなかったのですが、今日の報告の中で、

生活に関連した報告があったと思います。これまでの東北農業経済学会ではずいぶんと農業生産にウエイトを置いた議論が強かったわけですが、何年前だったのでしょうか、農村生活学会の東北支部の解散に伴って、多くの会員の方々に東北農業経済学会に加入していただきました。やはり農業生産だけではなく暮らしの視点、生活の視点、これらを加えて今後一生懸命議論していかなければいけないと考え、生活を少し意識して福島の方々に報告をお願いしました。そういった中で触れようと思いつながら敢えて触れなかった課題のひとつが財政問題です。財政問題はいずれ復興の中で必ず出てきます。今回は現場からの声に焦点をあてるということで、その課題をあえてスキップさせていただきました。こういった問題も本大会の中できちんと位置づけて、みなさんと議論しなければいけないと思います。最後に伊豆沼農産の伊藤社長から出された論点です。震災に限らず TPP も含め、今の日本の農業・農村の問題、これをもっときちんと国民に認識してもらおう努力も必要なのではないか。是非それを、今日お集まりのみなさんで意識して欲しいという要請がありました。確かにその通りだと思います。今回の 3.11 大震災に関しても、今日お集まりの方々はみなさん東北ないしは宮城・福島・岩手等に住まわれているので、関心が高いと思います。青森や秋田、山形からもいらっしゃっていただいている方々もごさいます。ただ、西日本に行くはずいぶんと認識が違うのではないかと、私も時々西日本に足を運んだりすると、それを感じ取り心配しています。東北から離れれば離れるほど日常生活の中に 3.11 が現れてこなくなっている。それでいいのだろうかという危惧感。それは先ほどの川上さんや須永さんの報告にも出てきたと思います。どうやって福島を絶えず忘れられないでいられるのか。こういったことは、宮城・岩手はもちろんのこと、実は財政問題の解決にも関わってくる問題だろうと思います。国民的議論と言いますけれども、そういったものをどうやってきちんと起こせるのかといった検討も必要ではないかと思います。まとめになりませんがこういったことが本日の 8 報告の中から見えてきたのではないかと思います。今日は午後 1 時から 6 時過ぎまで長時間に渡りみなさんに積極的に討議に参加していただき、ありがとうございました。これで宮城大会プレシンポを終わりたいと思います。